

熊本県立荒尾支援学校進路便り

わーく&らいふ

令和5年度第3号(通巻77号) 7月14日発行

■CONTENTS■

「キャリア教育と夏休み」～夏休みはチャンス！～

「キャリア教育と夏休み」～夏休みはチャンス！～

もうすぐ夏休み。家庭や地域で過ごす40日余りがスタートです。夏休み直前の進路だよりでは、毎年恒例の特集記事をお届けします。

◆夏休みはピンチ？チャンス？

「働く生活の準備は、まず家庭生活の充実から」と言われます。家族との時間が増える夏休みは、アイデアとリズムある生活、メリハリのある過ごし方等、目的のもちかた（もたせかた）次第で、ぐっと力をつけることができる時期かもしれません。

◆卒業生の取組より

右のスライドは、卒業生K君のお母様の取組の一コマです。

K君のお母様は、小学生時代の夏休みの宿題を契機に40日間かけて教えた家事が、卒業後の働く生活につながっていると教えてくださいました。

はじめは簡単なお手伝いだったことが、毎日の繰り返しの中でK君の家事として習慣化し、更には頼まれていないことまで（家族のために）やろうとする心の成長をもたらしたそうです。

家庭での責任ある役割（家事）を果たすこと、自分がやった結果が家族のために役立つこと、また、そのことでほめられる経験の積み重ねは、子どものキャリア発達を促す大きな意味があります。

将来につながる大切な力になることを想像しながら取り組んでみましょう。

～卒業生K君お母様の取組より

★「手伝い」の取組と広がり

→きっかけは、夏休みの宿題

母も腹をくくって教え、40日間で身についた成功体験。手伝い（労働）と楽しみ（対価）の結びつけもできた。

→今では、自分のエリアの整理整頓は完璧。担任もうらやむほど。

→たのまないことにも 広がり

兄の洗車を見て母の車を洗車。「あらったよ！」



◆まずは夏休みのスケジュール・目標づくりから

中学生以上になれば、お子様も交えた話し合いでスケジュールや目標をつくることは、本校が大切にしている「決める力」を育みます。ここでのキーワードは「いつもどおり」。無理のある計画はお互いに疲れてしまうもの。いつもどおりに家族と同じ時間に起床して、一連の家事（ゴミ出しカレンダーに合わせてゴミ出し、新聞を取る、朝ご飯の支度、片付け、洗い物、掃除・洗濯等々）を家族と一緒にやること。つまり、本人以外の家族が様々に受け持っている「家事」を、一緒にやってみるというスタンスです。



1日のスケジュールややることが決まれば自然と「メリハリ」のある生活になります。

◆「時間は味方」という考え方

お子様に何かを教える際に焦りは禁物です。今できることは一つでも、学校生活12年間では12個も教えられると考えましょう。

また、K君の例からもわかるように、正しく教えたことは習慣化します。さらにことばの理解やその他の学習理解と相まって、予想以上の望ましい行動・成長につながることもあります。

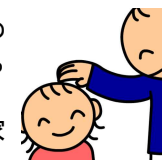
◆「人から教わる」ことのできる子どもに。

手伝いを教わるということは、親の手本を見て（注目行動）、真似をしながら行動し（模倣行動）、その時間を相手に合わせる（協調行動）を学ぶということです。このことは、学習のための重要なスキルで、いろいろなことの基本です。また、教わる相手が、お母さんだったり、お父さんだったり、ときにはきょうだいだったりと、協調できる相手が変わることも大切な学びとなります。

◆人から認められることを実感する場に。

家事を教える際には、お子様のがんばりをしっかり認め、ほめましょう。家庭での手伝いは、まさに褒められる（人から認められる）機会を増やすことと言えます。

家族と一緒に決めたことをやり遂げる経験が責任感を育み、家族から認められることで、自分自身を肯定的に見ることが出来るようになります。「ありがとう！たすかったよ。」「きれいになって嬉しい。」など、家族の一員としての自分を意識できるように、伝えましょう。



<編集後記>

学校生活にもずいぶん日常が戻ってきました。コロナ前まで実施しておりました「福祉サービス事業所説明会」も再開する予定で準備中です。たくさんの事業所のことを学ぶチャンスですので是非ご参加お待ちしております。（谷口）



★進路に関する疑問・質問は上のQRコードからどしどしお寄せください。